



島津琉球軍精記

四

13  
3299  
4





門へ18  
3299  
卷 4

# 琉球藩

佐野帶刀政形

新納武藏守一氏

海津琉球軍指記卷之四

大正十年八月廿  
本大學出版部

## 目録



一 佐野帶刀政形一氏の四言之事

并新納武藏守一氏の四言之事

一 佐野帶刀政形一氏の琉球國小治之事

并  
右の法田琉球小治之事



鴻津流球軍精記卷之四

佐野市口改取一兵と四言之事

其秘旨海軍と述す事

新内政なる一兵流球國の地利

一兵流球國の地利

感一兵流球國の地利

海軍一兵流球國の地利

今自らの事と云ふ事







おのゝとからいふは、  
知らぬもの、  
百官、  
音、  
國の、  
人、

何ぞわらひ、  
その、  
から、  
も、  
先年、  
年、  
と、



朝鮮を多と破りてはたより右地のむい  
海をいやくるもあはさるるもくもや軍  
大将の強弱をいりきり多少地別事也  
いしんぐのいん強いのきと用し  
海は地別と教くいん海軍のあま  
海軍といしんぐと出た天のいん  
地の利ふあつて地の利の天の利はあつて  
味しんぐの諸軍を志していん海軍のいん

ソのちり法故のりしんぐとやうしんぐと  
りしんぐと朝鮮の食言あま和るも  
そしんぐとあつていん海軍のいん  
公知将のいん海軍のいん海軍のいん  
りしんぐとあつていん海軍のいん  
其海軍といんぐといん海軍のいん  
ましんぐとあつていん海軍のいん































しりし海をもとふ城國の入口要漢  
一島は海にありて人の事候はりのり  
海所と細細と中し所の主將  
花後森が士軍をさそり中し  
中ししによ中しし人の事候はり  
りし海集り大島と中ししをさ  
一氏は海の通利ふ島の事候はり  
一氏は海にありて人の事候はり

今一島をさるる日本九州の高  
島は海にありて人の事候はり  
か合國の事候はり海にありて  
女界の事候はり海にありて  
中しし海にありて人の事候はり  
一氏は海にありて人の事候はり  
一氏は海にありて人の事候はり







大書しつゝ大書の丹好のふりかへ  
きぬく相とて一之縣表別まはる  
ゆりよ一氏づゝもいづゝ極喜ふあの中  
城とて中とて一度ふりて人のあつと  
しとび花後表もま根きとて  
うらみり利欲ふとて和漢とて  
同くの人とていづゝもいづゝ  
花後表の陣文碩がとていづゝもいづゝ

言とていづゝもいづゝもいづゝ  
花後表の陣文碩がとていづゝもいづゝ  
高きふりしとていづゝもいづゝ  
あつとていづゝもいづゝもいづゝ  
とていづゝもいづゝもいづゝ



ゆり〜高貴はるら〜海にほひ〜  
朝鮮の大王〜秋にた〜洞〜  
日中〜おま〜  
〜谷の國〜  
〜津の願〜  
〜の〜  
通利の〜  
高貴〜

年〜  
王城〜  
あま〜  
日中〜  
〜  
〜  
〜  
〜  
〜  
〜  
〜















しつとわね津文碩がうきくゆりて  
しつとらのねが件の妹といひまらぐ  
しつとら達をね中しるるる三氏をまき  
さうらまらわがし相公の思といひ  
てまらわらうきくやまらうしつとらとあし  
るるるる中もあしとあしを相公の思と  
質といひ思の思といひとあしとあし  
しつとらわらうきく津國といひとあしとあし

まらう人まらう二月の中になるる  
津合といひ津文碩といひとあしとあし  
しつとら一氏をまらう津國といひとあしとあし  
しつとら中になるる津國といひとあしとあし  
しつとら津國といひとあしとあしとあし  
しつとら津國といひとあしとあしとあし

鳴津

海津院球軍精紀卷之四



